

3

関東甲信越ブロックのHIV医療体制整備 北関東・甲信越地方ブロックエイズ対策促進事業における調査研究

研究分担者 茂呂 寛

新潟大学医歯学総合病院 感染管理部 准教授

研究要旨

HIV感染症の長期療養を念頭に、実効性を持った診療体制の確立が急務である。ブロック内では、各種検診や救急体制などの課題の共有を進めるとともに、各地域で人材の確保と育成を進め、診療体制の堅持と発展を図る必要がある。当ブロックでは、地方都市の立場として、患者数が比較的小さい点を鑑み、薬害被害者の個別の状況把握を進めるため、情報共有を目的とした新たな枠組みを設けた取り組みを開始した。さらに従来どおり、中核拠点病院協議会や症例検討会等の機会により課題共有を図る。

A. 研究目的

北関東・甲信越ブロック内で、HIV/AIDS診療に求められる基礎的な知識の普及を図り、医療水準の向上に結び付ける。さらに、長期療養に対応可能な診療体制の確立に向けて、医療機関同士の連携を強めると共に、拠点病院以外における症例の受け入れ体制を整備する。

B. 研究方法

1) HIV/エイズ症例の動向と診療実態の把握

北関東・甲信越ブロック内のHIV/エイズ診療の実態を把握するため、今年度もエイズ治療拠点病院を対象としたアンケート調査を継続して実施した。調査対象期間は2024年1月1日から12月31日までの1年間とした。調査内容は、HIV感染者およびエイズ患者の受診状況として、受診者数（HIV感染者およびエイズ患者の実数）、新規受診者数、血液製剤由来患者数、性別、病期分類、C型肝炎合併例の数および治療状況とした。

2) HIV/エイズ診療体制の均てん化への取り組み

中核拠点病院連絡協議会をはじめ、医療従事者を対象とした講演会、研修会、検討会を企画・実施し、人的交流の促進と診療経験・知識の共有を図った。また、各都県において中核拠点病院を中心に、HIV診療の質向上を目的とした啓発活動および教育的取り組みを継続した。

3) HIV基礎知識の啓発活動

薬害被害者を対象とした学習会を開催し、HIV感染症に関する最新の知見を提供した。これにより、患者自身の理解促進に加え、地域における医療従事者と薬害被害者との交流の場としての役割も果たすことができた。

<倫理面への配慮>

アンケート調査の実施、臨床研究、講演会や検討会での症例提示にあたり、匿名化を徹底するなど、個人情報保護に十分な配慮を行った。

C. 研究結果

1) HIV/エイズ症例の動向と診療実態

エイズ治療拠点病院すべての施設からアンケート回答が得られ、回収率は100%であった。本ブロックにおける総受診者数は1,214例であり、そのうち薬害被害者は28例であった。新規受診症例は83例で、前年と比較してやや増加していた。血液透析を受けている患者は10例であった。

2) 会議・講習会・研修会の開催状況

・北関東甲信越中核拠点病院協議会

9月12日にリモート形式で開催した。中核拠点病院の立場から、各県における現状および課題を共有し、今後の方向性を検討する有意義な機会となった。

・令和7年度関東・甲信越ブロック都県・エイズ治療拠点病院等連絡会議

10月22日に東京都都内に会場を設営し、エイズ

拠点病院長（管理・運営責任者）及び診療責任者、エイズ診療に積極的に取り組んでいる医療機関の関係者、都県衛生主管部（局）長及びエイズ対策担当者を対象とした会議であり、現地とWEB配信のハイブリッド形式とした。

・第24回 北関東・甲信越 HIV 感染症症例検討会

2026年1月30日 Webでの開催とした。一般演題では3演題の発表があった。また、ACC青木孝弘先生より、特別講演「HIV/AIDS診療における呼吸器合併症」をいただき、意義深い内容となった。

・その他、職種別の連絡会議など

看護師実務担当者による情報共有を目的として、北関東甲信越エイズ治療ブロック/中核拠点病院看護担当者会議をWeb開催した。加えて、カウンセラーを対象とした関東甲信越ブロックカウンセラー連絡会議、ソーシャルワーカーを対象とした北関東・甲信越地区エイズ治療拠点病院ソーシャルワーカー連絡会議、薬剤師を対象とした北関東・甲信越 HIV/AIDS 薬剤師連絡会議を、それぞれ実施した。

また、昨年度より開始された、北関東甲信越地域における薬害被害者の情報共有および支援体制構築を目的とした「北関東甲信越 HIV 感染者 包括支援連携（NK2-CHAIN）」の枠組みのもと、薬害被害者が通院している医療機関との間で、個別に情報共有の機会を設けた。

3) 地域における活動

HIV 診療の基礎的事項を伝える出張研修については、Web形式で実施し、事前に希望のあった医療機関を対象に、医師および看護師による講演を1セットとして、同一内容の研修を計4回配信した。今回は5施設からの視聴があり、アンケート結果からも講演内容に対する理解度および満足度は概ね良好であった。これらの取り組みにより、各施設における HIV 感染症に関する知識の定着が進み、今後の症例受け入れが円滑になることが期待される。

D. 考察

北関東甲信越地域における診療実態把握を目的としてアンケート調査を継続した結果、今年度も100%の回収率を達成することができた。これは、これまでに構築されてきた医療機関間および地域間の信頼関係が大きく寄与しているものと考えられる。

HIV 感染症の長期療養に伴い、C型肝炎治療、歯科診療および透析医療体制の整備、生活習慣病管理、メンタルヘルス対応、整形外科・リハビリテー

ション領域の充実、悪性疾患のスクリーニングなど、多岐にわたる課題への対応が求められている。これらに包括的に対応可能な診療体制の整備は、本ブロックにおける重要な課題である。

当院はブロック拠点病院として、新潟県という地域においてこれらの課題への対応を進めてきた。その一環として、「新潟県医療関連感染制御コンソーシアム（CHAIN）」の枠組みを HIV 領域へ展開してきた。今年度は、これまでの取り組みを基盤として、北関東・甲信越地域全体の枠組みである「北関東甲信越 HIV 感染者 包括支援連携（NK2-CHAIN）」を、中核拠点病院協議会の承認を経て設立し、活動を開始した。

NK2-CHAINの活動としては、まず薬害被害者の通院先医療機関との情報共有を優先課題と位置づけ、リモート会議等を活用した連携を進めた。また、今年度は薬害被害者を対象とした勉強会を開催することができ、今後は他県での開催も検討していく予定である。

診療体制の維持・発展には、人材の確保および育成が不可欠である。症例検討会等を通じて若手医療者が研鑽を積む機会を提供するとともに、多職種間の交流の場としても活用していくことが重要である。HIV 診療を担う人材の世代交代が進む中、原告団や当事者団体から直接話を聞く機会を設け、救済医療の原点を再確認する取り組みも今後の課題である。さらに、教育機関として、感染症内科を志望する若手医師に対し、HIV 感染症診療を必須分野の一つとして経験させ、十分な知識と実践力を有する感染症専門医の育成を進めている。将来的には、こうした医師が県内各医療圏に配置され、地域で活躍できる体制構築が期待される。

E. 結論

徐々に現地での活動が再開となり、今後は県境をまたぐ活動や、現地の医療者との直接の交流の機会を増やせるよう、社会の状況も踏まえながら、取り組みの内容を柔軟に変えていく必要がある。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

The Iron-infection Axis Revisited : From Mechanistic Insights to Therapeutic Frontiers

Hiroshi Moro 2025 Nov;31 (11) : 102818. doi :
10.1016/j.jiac.2025.102818. Epub 2025 Sep 25.

2. 学会発表

Pneumococcal Vaccination Strategies for Older Adults in Japan : A Systematic Review of PPSV23 RCTs and Recent Perspectives on Conjugate Vaccines, Hiroshi Moro, Nobumasa Aoki, Yuuki Bamba, Satoshi Shibata, Ikumi Yamagishi, Masahiro Ui, Hayato Tsuruma, Mariko Hakamata, Hiromi Cho, Mizuho Sato, Toshiaki Kikuchi 19th Vaccine Congress 2025年9月8日

シンポジウム15・Life Course Approach の視点から見た予防接種「成人の侵襲性肺炎球菌感染症予防」茂呂寛 第74回日本感染症学会 東日本地方会 学術集会 2025年9月26日

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし